

市長記者会見記録

日時：2021年3月3日（水）14時00分～14時29分

場所：第3庁舎18階 講堂

議題：市政一般

<内容>

《市政一般》

【司会】 ただいまから定例市長記者会見を始めます。

本日の議題は市政一般となっております。

早速質疑に入らせていただきます。進行につきましては、幹事社様、よろしくお願いいたします。

《東日本大震災（発災から10年目）について》

【産経（幹事社）】 幹事社の産経新聞です。よろしくお願いいたします。

まず、3・11に関連してなんですけれども、今年で震災の発生から10年という節目を迎えるに当たって、市として、節目の年の受け止めというのを教えてください。

【市長】 川崎市内にもいまだ600人を超える避難をされてきていらっしゃる方はいるので、それと川崎市でも市の職員が、それぞれの被災地に今なお3名は復興のためにまだ尽力しているということで、それぞれの地域で物理的な復興というのは進んでいるのかもしれませんが、行方不明者の方もまだ2,500名を超えていらっしゃるわけで、そういった意味では、物理的な復興と、それから、10年たってまだ癒やされない被災者の方ということに、これからもやはり寄り添っていかねばならないのではないかなと思っています。そういう意味では、振り返ってみると、人によって長い10年だったということもありましょうし、あっという間の10年だと思う方もいらっしゃると思いますが、それぞれの10年というのを今回の節目で改めて思い返して、教訓をしっかり生かしていくことが必要かなと思っています。

【産経（幹事社）】 ありがとうございます。震災に関連して、今、コロナ禍ではあるんですけども、10年の節目の行事だったりとかを開催する御予定というのはあるんですか。

【市長】 ごめんなさい、何と同時に？

【産経（幹事社）】 震災に関連して、コロナ禍ではあるんですけども、10年節目の行事だったりとか、市として何か主催でやることとかあれば教えてください。

【市長】 市での主催という形ではありませんけれども、毎年行っているミュージア川崎での復興コンサートというのは、チャリティーコンサートというのは毎年続けていて、今年も予定どおりあると聞いています。川崎市主催でのという形ではイベントとしてはないと理解しています。

《リニア中央新幹線建設工事に対する要請書の提出について》

【産経（幹事社）】 ありがとうございます。

別の話題にはなるんですけども、リニア中央新幹線の建設についてお伺いしたいんですけども、先々週の19日に県と川崎市と合同で、JR東海に対して安全対策を求める要請書というのを川崎市も提出されたと思うんですけども、市民団体からも安全対策を求める声が上がっている中で、本格的な工事をまだ迎える前だと思うんですけども、工事を迎える前に当たって、市として改めて事業者を求めることだったりとか工事に対する受け止めというのを市長からお願いいたします。

【市長】 これまでも事業の進捗に当たって、住民への丁寧な説明というのは求めてきていましたし、それについて丁寧にやっていただいているというふうには思っています。今回、地下を掘るということに対して、これ、一般論の話でありますけれども、大丈夫なんだろうかという不安な気持ちが出ているというのは、ある意味当然ということでもありますので、より一層、安全のことについてはしっかり市民に対して、周辺住民に対しても説明していただくようお願いしたいと思っています。

【産経（幹事社）】 ありがとうございます。

《川崎じもと応援券について》

【日経（幹事社）】 日経新聞です。よろしくお祈いします。先日改定した緊急経済対策に絡んで2点お聞きしたいんですけども、まず1点、じもと応援券の追加発行等々、手を打たれていますけれども、これについて、現在の市内の経済の状況をどう御覧になっているのかというのが1点。それと、もう一つ、非常勤職員として、一時的に民間企業から仕事がなくなった人を雇うという政策を打ち出されていますけれども、これ、運輸とかサービスとか、従来の市の職員とちょっと違う知見を持った方々が、もしも応募すれば雇うということになるんですが、期間終了後も常勤職員として雇用するとかして、いわゆる市の人材の活用に生かされるのかどうかというその2点についてお伺いしたいと思います。

【市長】 1点目は、じもと応援券ですね。

【日経（幹事社）】 ええ、現在の状況。

【市長】 現在の状況、緊急事態宣言が発出される前というのは、大体12月もそう

でしたけれども、11月、20億程度換金をされているということを考えると、特に7区中6区は飲食店が使われている内容が一番多いということで、まさに緊急事態宣言で非常に厳しい状況にある方たちの下支えになっているということは思います。一方、1月、2月というのは利用が半分、あるいは半分以下のところに減ってきているというのは、緊急事態宣言の影響を強く受けているなと思っています。ですから、発行したところでまだ使い切れていない方たちには最後までやっぱり、5月まで延長しましたので、しっかりと地元で下支えをしていただきたいということと、全部使い切ってくださいと113億の経済効果という意味においては非常に効果が大きかったのではないかと、手前みそでありますけれども、思っております。

これ、第2弾を発行するに当たって、どういうふうの下支えするかというのは検討いたしました。けれども、やはり、これだけ5,000を超える店舗が参加をされて、比較的多くの方に利用されている制度を継続してやるのが最も分かりやすくなるのではないかなという形で追加をさせていただいております。趣旨は、これ、なかなか伝わらないから難しいんですけども、あくまでも地元の中小企業を下支えするためにやるのであって、なぜ大手スーパーで使えないんだ、家電量販店で使えないかということをよく言われるんですが、趣旨がそうではないということ、ぜひともこれからも粘り強く、しっかり御理解いただけるように御協力をお願いしたいと思っております。何とか厳しいところ、業種はたくさんありますので、そういう厳しいところこそ、これを使って応援していただきたいと思っております。

それから2つ目が、すいません。

《雇用対策会計年度任用職員について》

【日経（幹事社）】 非常勤職員の方の。

【市長】 非常勤職員の話でありますけれども、こうやって雇調金などをうまく活用しながらという形に、調整するわけですが、1年後どうなっているかというのは、いい形で次に、民間のところにもマッチングできるという形であればいいなというふうには思っていますが、戻るとか、あるいはまた違う形でという展開があればいいと思うんです。まだ、雇用を継続してというのは現時点では考えておりませんが、このコロナの状況も、それこそまだ先が見えないので、あまり断定的に考えずに、状況を見ながら判断したいと思っておりますが、終わったら本市で雇用してということまでは現時点では考えておりません。

【日経（幹事社）】 分かりました。

《新型コロナウイルス感染症について》

【毎日（幹事社）】 同じく幹事の毎日です。今、先が見えないという話がありましたけれども、今週、新たな感染がゼロになった日とかが出たりとかして下向きになっていると思いますけれども、その辺の市長としての受け止めは、どんなふうに受け止めていらっしゃるのか。

【市長】 本当に言い方が難しいんですけど、瞬間的にゼロになったというのはありますけれども、やはりこの1週間を見ても、15、6あるいは20前後というのを上下しているような状況ですので、これがぐっともう一段階下がるというのは非常に厳しいハードルだとは認識しています。そういった意味では、本格的に減らしていくということにおいては、やっぱりワクチンの接種をしていかないと、いわゆる完全なリバウンド対策というか、抑え込みという形にはなりづらいのではないかなと思っています。ですから、本市の岡部所長が今年の第1波のときからずっと言ってきて、今まさにそうだなと思っているんですが、この話ってゼロになることはなくて、ずーっとこうなるけれども、対策を取ると細くなってくるけれども、少し緩むと、経済活動すると少し増える、それをまた抑え込んでという、そういうことの繰り返しで、ワクチンとか治療薬というのを待っていきかないんだという話を、1年たってみて、やっぱりそういうことなんだということを私たちは身をもって今感じておりますし、そういった意味でも、引き続き基本的な感染対策をしっかり行うことというのはもう分かってきたということと、それと、やはりワクチン接種というのを、できるだけ速やかに多くの方に安全にやっていくということが大事だなということを思っております。

《川崎市立井田病院のレストランの公募について》

【毎日（幹事社）】 話はまた飛びますけれども、井田病院のレストランが4月から、恐らく運営者がいないという状況になると思うんですけど、前にも考え方は伺いましたけれども、改めて考え方があったら教えてください。

【市長】 今回撤退し、それから新たな事業者も辞退をするという話になって、結果的に、一番迎えたくないなという状況に4月からなるということは残念ながら避けられない状況になりまして、本当に残念に思っています。新たな条件という形で、一刻も早くレストランを利用できるような状況にすることは、病院を訪れる方もそうですし、従業員の福利厚生というか、そういった側面も大きいものですから、一刻も早くそういったことができるように準備をしていきたいとは思っています。

【毎日（幹事社）】 分かりました。

じゃ、幹事、以上ですので、各社、どうぞ。

《新型コロナウイルス感染症について》

【読売】 読売新聞です。今月の7日に、一応現状で宣言解除の期日になっているわけですがけれども、様々、昨日までにも報道ありましたように、黒岩知事はぎりぎりまで見ないと、まだ慎重に見ていきたいという御発言がございました。市長も日々、市内の感染状況を見ておられて、今の状況下での解除へのお考えというのは、率直に御所感をお尋ねできますでしょうか。

【市長】 先ほども申し上げましたけれども、ちょっと下げ止まっているというか、くすぶり続けているという状況はやや心配ではあります。やっぱり各種データを見ても、人の流れが若干増えているという数値もありますし、3月、よく言われている話ですけど、年度末と年度明けということになりますと、どうしても人が動くときですから、そういった意味では警戒感を弱めてはまずいなという気持ちではおります。これもよく言われている話ですがけれども、変異株の話というのも気になるところで、そちらがどういうふうに移っていくのかというのは、これは注意深く見ていかなくちゃいけないので、あまり楽観できるような状況ではないとは思って、厳しく見ております。

【読売】 そうすると、まだ早急というお気持ちでしょうか、今のところ。

【市長】 たとえ解除になったとしても、かなり厳し目な行動の御協力をいただくということがないと、そういう意味でのリバウンドをしてしまう危険性は十分にあるのではないかなと感じております。

【読売】 ありがとうございます。

【神奈川】 神奈川新聞ですがけれども、ワクチンについてなんですが、いろいろ報道されていますけれども、今のところ、川崎市に入ってくるのはいつ頃にどれくらい入ってくるのかということと、実際入ってきてても数が非常に少ない、高齢者の方を全部カバーできるぐらい一遍に入ってくるわけではないという中で、誰に打つかとか、その点は難しいと思うんですが、第1弾が入ってくるに当たっての課題とどのように進めていくかという考え方を教えてください。

【市長】 神奈川県から県内市町村に意向調査というのが出されていて、4月5日の週に届くもの、以降毎週徐々に入ってくるわけでありまして、それについてまず、4月12日から打てますかと、その用意ができますかということに対しては、川崎市はできますというお答えと、希望しますかということについても希望しますという形でお返事をさせていただいております。どんな使い方をしますかということに関しては、検討中とは答えていますが、本市としては、これまで言ってなかったです

かね、高齢者施設というところに、やはり数が少ないということですので、一般的な高齢者の75歳以上の方というところにどんといっても、ちょっと混乱を招くということと、それから、やはり、これまでのクラスターだとか、どこに一番ワクチンを優先的に接種していかなければならないかという高齢者施設になろうかと思いたいで、まずそこからやっていきたいと思っています。これ、検討ということですけども、今日、医療プロジェクトチームがあるんですが、その中で諮って最終的な決定はしたいと思っています。

【神奈川】 じゃ、これから、この後という感じですかね。

【市長】 そうですね。今日16時からのPTに諮って、最終的な決定をしたいと思いますが、そのような方向です。

【神奈川】 ちなみに、1か所とか何か所とか、その辺は固まっているんですか。

【市長】 来たとしても1,000人分満たないぐらいなのかなと思っていますので、そういった意味では非常に限られたところになろうかと思いたいます。施設といっても、何十か所もやれるほどのものではないと思っていますので、そこはしっかりとした基準を設けて、どこの高齢者施設にするのかというのは考えていかなくちゃいけないと思っています。いずれにしても、1回目の接種ということになりますと、まず安全性ということがとても大事な観点になろうかと思いたいますので、そこがしっかりと確保できるところからまずやっていきたいと思っています。

【神奈川】 ありがとうございます。

【東京】 今の質問に関連して、東京新聞です。高齢者施設でも、例えば、巡回接種については、希望する施設とか、たしか、そういった意向調査もされるようなお話を伺っていましたがけれども、どういう施設が対象になるかというのを伺いできますでしょうか。

【市長】 高齢者施設の中でも、例えば特養だとか老健だとかということがありますがけれども、今、はっきりしたことは決めておりません。意向調査ということもそうですけども、まずは、今申し上げたように、どういったところが安全にできるのかということと、それから、嘱託医の方の御協力がしっかりと得られるかということが一つの大きなポイントになろうかと思いたいますので、そのところを勘案して、限られたパイをどこにやっていくかということになろうかと思いたいます。

【東京】 分かりました。あともう一つ、先ほどの宣言の延長の考え方についてですけども、少し慎重に見なくてははいけないというお話もありましたが、近く首都圏でも判断がされるということで、県に何か考え方について御要望されていることがあれ

ばお伺いできますか。

【市長】 いえ、私からは特に、知事に対して要望しているということはありません。

【東京】 分かりました。同じくワクチン供給について、今おっしゃられたような量とか、あと県のそういう、配付するのも難しいと思うんですけれども、川崎、比較的人口が多いところでもありますし、そういった供給に当たっての見通しについて何か要望されていることがあったらお伺いできますか。

【市長】 要望というよりも、県も多分、これ、すごく困ると思うんですよね。そもそもの数が少ないので、そこをどういう形で、皆さん、本格的な接種に入る前の処理をどうやってうまく、本格接種に向けてやっていくかということなので、全体にもまかなわなければならないということなので、どこの自治体もそうだと思いますが、あまりエゴイスティックに、うちのところにみたいな話はふさわしくないと思いますし、聞き方も、受け入れる準備はできていますか、希望されますかということなので、それに対して希望しますとか受入れ準備はできていますか、そういう、やや受動的といいますか、ということで私は正しいというふうに思います。そういった意味では、県の立場も考えながら、県内市町村が思いやりのある態度が必要かなとは思っています。

【東京】 分かりました。ありがとうございます。

【朝日】 市長、朝日新聞です。先ほどから出ている宣言解除に関連する話なんですけど、宣言解除に対して慎重な意見とも受け止められたんですけれども、指標を見ると、神奈川県は宣言を解除してもいいような数字がかなり前から出ているように見受けられます。これで解除できないということになると、じゃ、指標を見直したほうがいいのか、そういう議論もあるかとは思いますが、市長、どうお考えでしょうか。

【市長】 私も当初から、出口というのはどこなのかという指標をしっかりと、これは難しい判断だとは分かっていますけれども、どこかで決めておかないと、もうみんな言うことを聞かなくなっちゃうとか、出口が見えない闘いというのは、みんなが疲弊していただけないのかということ、これまでも私も申してきましたけれども、とは言っても、不確定要因が出てきているということは、それは先ほど申し上げた変異株の話ですとか、ついこの間まではそういうことを、想定してなかったわけではないんですけれども、今ほど脅威に感じていなかったような事態がまた新たに発生しているということもありますので、その時点のベストを考えていくしかないというのが。だから、指標を見直すかという、じゃ、どこのということになるので、自分で言って

いても変なんですけれども、どっかで設けるべきだという感覚と、じゃ、それに見合ったものなんて本当にできるかというと、そういう状況でもないのかなという、自分で言っているにもかかわらず非常に矛盾している話なので、何とも言いづらい話です。

一方で、神奈川県内の中で見ても、川崎市のこれまでの感染者の数なんかを見ますと、ほぼ完全に東京都と連動してきているということが見て取れていますので、そういう意味では、全県というよりも、川崎市の場合はより厳し目に見ておくというのが自然な考え方だろうと、人の流れの、交流の形態からしてみても。そういった意味で、やや厳し目に見ているという点でございます。

【朝日】 関連して。営業短縮、営業自粛みたいな話とは別に、これから卒業式シーズンというのが来るのと、それから小学6年生のよみうりランドでの修学旅行に代わるイベントというのが近づいていて、これが緊急事態宣言の中に入っちゃう可能性が出てきているんだと思いますけれども、この辺りの実施についてはどのようにお考えでしょうか。

【市長】 これは、緊急事態宣言があっても、当初からこれ、今言っている話ではなくて、前からのガイドラインがあるんですが、宿泊を伴うものであったならば……、いずれにしても、緊急事態宣言であっても、公共交通機関を使わないという形、いろんな制限をかけてであれば開催すると言っておりましたので、今回のよみうりランドの話は、緊急事態宣言が延びたとしても予定どおり実施するという形になります。もう少し正確に言います。緊急事態宣言期間中の宿泊を伴わない校外学習については、感染防止対策を十分確認した上で、公共交通機関を利用しない場合に限定して実施を可とするということを既に発出しておきまして、その方針は今も変わっていないということです。卒業式、入学式についても、昨年度同様、しっかり感染対策を行った上で実施するとしておりますので。

《台風19号の影響による浸水被害に対する訴訟提起について》

【東京】 お願いします。東京新聞です。実は、一昨年の台風19号の浸水被害をめぐりまして、排水樋管操作をめぐる川崎市の対応に問題があったということで、被災された方々の一部が損害賠償を求めて裁判を起こそうと準備をしています。改めて川崎市として、これまで検証報告書という形でまとめていらっしゃるんですけども、川崎市の賠償責任についての市長のお考えを教えてください。

【市長】 私たちが想定し得る以上の水位が上がったということで、このような被害になってしまったということで、そういった意味では、報告書にも書いてありますとおり、私どもには、いわゆる瑕疵というのはないと結論づけておりますが、そのこと

についてはこれまでも御説明させていただきました。ただ、これまでも私も申し上げておりますけれども、被害に遭われた方の心情として、やはり市に賠償を求める、責任を求めるというお気持ちは私も十分理解します。その上で裁判を提訴されるということであれば、しっかりと裁判の中で私どもの主張を丁寧に御説明していく、主張していくことになろうかと思えます。

【東京】 分かりました。関連で伺います。今、想定し得る以上の水位に上がったというお話があったんですけれども、これ、いわゆる予見できたかできなかったかというのが大きなポイントになってくると思うんですけれども、市町村の予見性についてはどうお考えでしょうか。

【市長】 それは予見性というか、そもそも想定しているというもののつくりだとか、それに伴うマニュアルとかというものは当時存在していたわけで、そのことについては、これまでも報告書の中で御説明させていただいておりでありますので、その主張には、その報告書を作ったときも現在も変更はありませんので、そういった意味では、その主張をしっかりとやっていくということになると思えます。

【東京】 分かりました。もう1点だけ、関連してなんですけれども、今の水位の問題なんですけど、例えば排水樋管の周辺の地盤高、周辺の高さ、それを上回ると逆流をする、河川水が住宅地に流れ込むという造りになっていると思うんですけれども、これまでも逆流がもしあったとすると予見できた可能性があると思うんですけれども、これまで排水樋管の周辺地盤高を超えたことはなかったんでしょうか、あったんでしょうか。

【市長】 細かい話になりますと、多分、裁判でのことにもかなり影響してくると思えますので、それは裁判の中でしっかりと御説明させていただければと思えます。

【東京】 分かりました。

【司会】 そのほか、いかがでしょうか。御質問はよろしいでしょうか。

それでは、以上で定例市長記者会見を終了させていただきます。ありがとうございました。

(以上)

・この記録は、重複した言葉づかい、明らかな言い直しや質問項目などを整理した上で掲載しています。

(お問合せ) 川崎市役所総務企画局シティプロモーション推進室報道担当

電話番号：044(200)2355